

平成30年度 事業実施報告書

一般社団法人 北陸地域づくり協会

事業名 (個別メニュー)	立山町インターカレッジ・コンペティション2018	事業経緯	継 続	実施体制	後 援	担当所属	富山支所
事業名 (大項目)	地域づくり活動促進事業	分類名 (中項目)	地域活性化・振興支援事業		事業区分	表彰、コンクール	

1. 事業目的

富山県立山町の産業振興や地域活性化、地域ブランド構築などの分野で、全国の大学生による地域おこし事業のアイデアを競う。フィールドワーク活動期間を組み込み、学生に対し資質向上にかなう実学の場を提供する一方、斬新な発想と理論に裏付けされたアイデアを町の地域活性化につなげることを目的とする。

2. 事業実施体制

主 催：立山町
共 催：立山町観光協会
後 援：一般社団法人北陸地域づくり協会
運 営：(株)たてやま

3. 事業実施概要

1. 実施スケジュール

- ・4月初旬：プレスリリース
- ・6月～7月：大学へ出向き、町の現状及び課題について説明
- ・8月～9月：立山町にてフィールドワーク活動
- ・11月16日：レポート提出
- ・12月1日：プレゼンテーション(立山町元気交流ステーション「みらいぶ」)

2. 募集要項

参加資格：全国の国公立・私立大学の大学生、大学院生
及び国立高等専門学校専門課程の学生

3. 参加校

7大学7チーム、フィールドワーク参加64名
跡見学園女子大学、桜美林大学、近畿大学、昭和女子大学、獨協大学、富山大学、明治大学

4. 審 査(一般公開)

審査方法：レポート構成力・分析力、着眼点・発想の豊かさ、地域特性の理解、事業の効果・継続性、プレゼンテーション力の5項目を点数化
審査員：立山町長、富山県など計6名

4. 事業実施による効果(評価・貢献度等)

平成24年度からスタートして今回で7回目。学生がフィールドワークで町内各所へ出向き、地域住民と交流することによって、学生においては地域の抱える問題点を学ぶことができ、町民は県外の若者から見た町の実状を知る良い機会となっている。

今回は地域経済、農業、観光等の専門分野から斬新な提案がされ、どれも今後、町の活性化を推進するうえで大変参考となるものであった。

最優秀提案者となった明治大学川島ゼミナールの提案について、次年度に実証実験を行うこととしており、官学連携した実現性のある地域貢献として新しい事業展開の可能性に期待が持てる。



フィールドワーク



最優秀チーム：明治大学



プレゼンテーション／審査